

雛松会 130周年記念総会 懇親会を盛大に開催!!



平成23年4月3日(日)、ザ・リッツ・カールトン大阪にて「雛松会130周年記念総会・懇親会」が240名の参加で開催されました。詳しくは5面から8面の特集記事をご覧ください。

雛松会 ジュニア会のご案内

★平成17年卒～平成24年卒の人

日時 平成24年3月29日(木)
AM10:00～12:00

場所 母校(附属天王寺小学校)

内 容

◎議事

◎アトラクション

◎年次毎の同窓会

恩師や友人とのなつかしいお話、運動場でのスポーツ、楽しいお店も開きます。

総会・懇親会は二年に一度です。
本年度は総会・懇親会はありません。
次回開催は来年、右記のとおりです。

日時 平成25年4月6日(土) PM3:30～
場所 天王寺都ホテル 6F吉野の間
●大阪市阿倍野区松崎町1-2-8

総会担当より

- 次回来年度雛松会総会・懇親会当日の午後1時～2時30分に母校「ひなまつひろば」を開放します。是非この機会に母校附属天王寺小学校を訪れて下さい。
- 雛松会総会・懇親会を利用した同期会を企画されてはいかがでしょう。各期ごとにテーブルを設置したり、いろいろご相談に応じますので、幹事の方は是非お考え下さい。

◆問い合わせ先

総会担当 桜井 忠孝
(昭和54年卒)
TEL090-3613-8639

雛松

第43号



平成24年 3月15日

雛松会

大阪教育大学
附属天王寺小学校
〒545-0053
大阪市阿倍野区松崎町
1丁目2-45
TEL. 06(6621)0123

<主な記事>

◆ジュニア会のご案内	1面
◆学校長・会長ご挨拶	2面
◆転出された先生方	3面
◆附小NOW・訃報	4面
◆130周年記念総会・懇親会	5面
◆記念総会de同期会	6面
◆同期会報告	7面
◆恩師の先生方からメッセージ	8面
◆級友からの近況報告	9面
◆年会費納入者一覧	10面
	11面
	12面

今一度、グローバルな見方を



雛松会名誉会長
大阪教育大学
附属天王寺小学校校長
水野 恵司

学級規模の変遷

大阪教育大学附属天王寺小学校は平成24年4月から一クラス40人から35人になる。これは義務教育標準法が30年ぶりに変更となり、小学校一年生のクラス上限人数が40人から35人に減ることに対応してのものである。本校では24年度入学生の学年進行とともに各学年が順次35人学級に移行し、六年後には定員が630人

に減少することになる。学級規模は教師一人が見る児童一人と向き合える時間を決め、教育環境の質を測る重要な要素である。本稿において、第二次世界大戦後の歴史の中で、学級規模を世界、日本、大阪と比較する中で、本校の教育環境を考えてみたい。

義務教育標準法は昭和33年に一学級50人、昭和38年に45人、昭和55年に40人と学級規模を改正してきた。これらの数字は法律で定める上限人数であり、実態を表すものでない。平均値を見ると、明治時代は50人を超えていたものの、時代とともに減少し、昭和35年には42人、45年に33人、55年に34人、平成2年に30人、12年に27人、22年に25人と

なっている。大都市をもつ大阪府ではいずれの年次も全国平均を数人ずつ上回り平成22年に27人となっている。大阪市内では、ベビーブーム世代の多くの子ども達が昭和30年代前半小学校に入校した。学校建設が追いつかず、二部授業やすし詰学級が発生した。その後大阪都市圏人口分布のドーナ

ツ化による大阪市内人口減と第二次ベビーブーム世代児童の卒業を経て、児童数は昭和55年以降減少した。現在児童数はピーク時の約半数となり、小規模校の学統合が課題となっている。学級規模は昭和32年にピークの51人、昭和45年で38人、平成2年で30人、平成22年で26人である。

国際比較を見ると、平成18年のOECD諸国平均は22人である。日本の現在の平均25人という数字は先進諸国の中では見劣りしている。本校での学級規模は38人以下と一定しており、ここ十数年は40人以下であった。

この数字は、昭和35〜45年の全国平均や大阪市内の数字に相当する。すなわち本校の学級規模は日本や大阪市の40年前の水準であり、年とともにその差は次第に開いている。また現在のOECD諸国の数字の二倍近くになっており、発展途上国水準であると言ええる。来年度からこの状態が若干緩和されるが、まだまだ十分とは言えない。

以上述べたように、学級規模という点から見た本校の教育環境は、恵まれたものとは言えなかった。その中で、雛松会の諸氏は小学校時代、保護者の力添え、先生方の熱心な指導のもと、

この環境に負けることなく勉学され、現在様々な分野に活躍されていることは誠に幸いである。

大阪教育大学は附属学校としての適正な教育環境を考え、検討をしていかなければならない。今後の母校発展のために、雛松会員皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げる次第である。

雛松会役員一覧

名譽会長		水野 恵司 先生 (校長)
担当教諭		八木 隆文 先生 (副校長)
会長		高井 大輔 先生
副会長		西川 雅夫 (昭36)
会計監査		安田 美津子 (昭32)
会計		吉村 計三 (昭42)
		平田 修一 (昭50)
		西村 泰彦 (昭53)
		柴谷 一慶 (昭17)
		岡本 明剛 (昭36)
		曲田 勝紀 (昭39)
		赤尾 滋樹 (昭53)



雛松会会長
(昭和36年卒)

西川 雅夫

未来に向かって進む力

昨年4月銭高前会長より、歴史と伝統ある「雛松会」会長を拝命致しました。この重責を全うすべく、微力ではございますが全力を尽くす所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、我が国日本は戦後67年を迎え、人口の七割近くが戦後生まれであり、団塊の世代も2007年以降リタイアしはじめ、4人に1人が65歳以上というまことに新たな時代を迎えようとしています。中国やインド、ブラジルなどの発展途上国は、米国をはじめとする先

進国に追いつき追い越せの勢いで発展を遂げ、世界経済の勢力地図が次第に塗り替えられていくような状況を呈しております。今回のTPPの問題をはじめアジア会議など、世界人口70億の半数の国々が、残りの半数の国々を経済的に取り込み、自国の経済成長の糧にしようとしている様子が見え、後の世界経済の大局的な見方と言われている。そこには、エネルギー資源の問題と食料問題が必ず絡んでおり、あらゆる民族のイデオロギーや宗教問題を乗

り越えていかなければ、平和は保たれないことは言うまでもありません。それぞれの国々が自国の発展を願うのは当然のことながら、温暖化の問題や異常気象の問題など、地球規模で考えなければならぬ課題が山積しているように思われます。我が国の経済においても人口の減少は言うまでもなく、それにも増して雇用の減少が、空洞化により拍車がかかることは間違いない。貿易国と言われながらも内需を基盤に経済成長を遂げた我が国にとっ

ては、今一度、グローバルに考えなければいけない時代だと思われま。一方、今回の大震災で日本人の徳のある国民性が世界的にクローズアップされ、非常時にも関わらず、思いやりと優しさを兼ね備えた民族性が賞賛されました。それは、これからの時代に求められている人間力とも言えるべき心の持ち方、考え方であり、今何が大事で何が不要なのかを見極める判断力だと思えます。そのためには、明日の日本という

国づくりのためにも、教育に最大の力を注がなければなりません。歴史を理解した上で、世界における日本の位置付けと役割を鮮明にし、正々堂々と世界に向かって自己主張できる教育方針が重要と思われま。過去は過去と割り切り、未来に向かって進む力こそ、今回の大震災と合わせて考えるべきであり、いつまでも過去の余韻にこだわら続ける民族であってはならないのです。目先に捉われず、何事も短期的、且つ長期的に、

物事の一面を見ないで考えるだけ双方向から考え、枝葉末節にこだわることなく、物事の本质を追求することこそが、これからのグローバル化時代に備えての最も大切なことだと思えます。最後にになりましたが、雛松会の会員の皆さまにおかれましては、先輩後輩の垣根を越えて創立131年の伝統の上に、明日の日本を大いに語って頂きますことをお願い申し上げますと共に、会員各位のご健康と多幸をお祈り申し上げます。

附小 ホームページ

母校の最新情報満載

<http://tensho.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/>

雛松会のホームページ 出来ました！

<http://www.hinamatsu.com/>

総会・懇親会の案内や雛松会の歩み、役員と各期幹事、会費・協賛金の案内、そして会報のバックナンバーもご覧いただけます。是非「お気に入り」に入れて、時々雛松会のことを思い出して下さい！

131期卒業生記念品

思い出「大切に」ポケットアルバム

雛松会では、毎年卒業生に記念品を贈呈していますが、本年度131期卒業生には、写真のポケットアルバムを贈ることになり、3月16日の卒業式当日に、卒業生全員に渡されます。



(セキセイ株式会社 謹製)



石川隆之 先生

〈理科〉

（平成10年4月～
平成23年3月）

大阪市立新森小路
小学校へ転出

生涯一教師

雛松会の皆様、13年間お世話になり本当にありがとうございました。教師になる前から「生涯一教師」を目標にしてきた私は、この学校であらためてその思いを強くすることができました。それは素晴らしい子どもたちと出会えたからです。いまでも教師になると決めたときのことをふと思い出すことがあります。当時は教師になるのは狭き門で、大阪市の採用人数も大変少ないものでした。同級生たちはみな一般の企業に就職しても心細かったのを覚えています。すでに教職をめざしていた私も、少し気持ちが揺らぎそうになったこともありましたが、現役の時はおそらく不合格で、一年間講師をするようになりました。2年生の担任として子どもたちとはななく過ごしながらも、将来への不安がいつも頭の片隅にありました。そんな私に教師への道を決定づけてくれたのもやはり子どもたちでした。その日はちょうど私の誕生日でした。朝教室へ入ると、子どもたちがみんなよい姿勢をしてにこにこ座っていました。私の誕生日であることを知っていた子どもたちはみんなで示し合ってくれたのでしよう。どの子の机の上にも小さなプレゼントが乗っていました。ところが、ふと右隅を見ると一人の男の子が机に伏せていました。プレゼントもありません。「ははん、きつとプレゼントを忘れたんだ



河野敬重 先生

〈図画工作〉

（平成14年4月～
平成23年3月）

岸和田市立春木小
学校へ転出

感謝

私はこの大阪教育大学附属天王寺小学校に平成14年から9年間お世話になりました。自分が附属天王寺小を出てから、もう9ヶ月も経つんだなあ改めて月日の経過の速さを感じています。

現在、岸和田市の春木小学校に勤務しています。主に高学年に関わっています。岸和田市で勤務していますが、やはり自分の教師生活の中で最も長い期間を過ごした附属天王寺小のことは、自分の生活リズムの中にあって、『今頃は、もう泳ぎこんでいるんだろうな。』と放課後水泳練習をしない自分に違和感を感じたり、『白良浜は波大丈夫かな。』と休憩時間にライブカメラを見てみたり、『もう9月か。実習生と遅くまで授業の準備をしたなあ。』『いよいよ、学芸会の練習も佳境に入っている頃だろうな。』など、附属天王寺小の行事が思い出されることがしばしば

転出された

た先生方

な。」と思い気づかぬふりをしていました。しばらくしてどうしようその子が「先生、しんどい。」と訴えてきました。おでこに手を当ててみるととても熱いのびっくりして保健室につれて行き、熱をはかること9度もありました。すぐに家に連絡して家に帰すことになりました。教室へもどりながら「なんでこんなに熱あるのに学校に来たん？」と聞くこと「だって先生の誕生日やもん。」とその子は答えました。私は涙が止まりませんでした。たった8歳の子どもが親に反対されながらも学校行つて、おめでとと言わつとしてくれたこと。プレゼントがなく心細い思いをしながらもずっと私を待っていてくれたこと。教師という仕事に漠然と抱えていた不安はそのとき完全になくなりました。「いつまでも子どもたちのそばに寄りそう教師でいよう」とそのとき決意しました。くじけそうになったときはいつもそのときのことを思い出し、自分を奮い立たせてきました。

附小でもこのようなことがいくつもありました。臨海ですいか割りをそっちのけで、友だちのところへ走っていった子どもたちの姿。自分も苦しいのに受験をする友だちのために一生懸命応援していた子どもたちの姿。あることがきっかけで「教師を辞めます」と教頭先生に言いに行ったとき、「先生やめんといて」と校長室に泣きながらかけつけてくれた子どもたちの姿。どれも忘れることができません。大切な宝物です。お金では買えない大切なものが確かにあるんですね。これからも、そんな子どもたちに寄り添う教師でありたいと思っています。雛松会は、附小の同窓会ですね。この先みなさんと会つのをとても楽しみにしています。食事をしたり、お酒を飲んだりしながら懐かしい話で盛り上がりたいですね。ぜひ声をかけて下さい。その日を楽しみに頑張りたいと思います。

ばでした。

今更ですが、自分は本当に幸せ者だと思っています。附属天王寺小で仕事をやるチャンスをもたえ、たくさんの人と出会つことができました。附属天王寺小のみなさん、保護者の皆様、附属小学校の先生方、美術教育に携わる先生方、この方々との出会いは、自分にとってすばらしい財産です。

9年間の間に、たくさんの方と一緒に学ぶ機会をもつことができました。そして、とてもとても大切な、三人の尊敬する先輩を失つことを経験しました。楽しいことやうれしいこと、時には悲しいことや悩むことなど、つらい経験も含めて自分にとって貴重な経験であったと思っています。

この附属天王寺小学校で働けたことは、教師としてはもちろん、人間としても成長できる貴重な時間でしたし、同時に自分のいたるなさを自覚させてくれる貴重な時間でした。

今後、この附属天王寺小学校がくれた出会い、絆を大切にしながら教師として人間として学び続けていきたいと思っています。これまで本当にありがとうございました。



片山雅夫 先生

〈理科〉

（平成14年4月～
平成23年3月）

大阪市立大江小
学校へ転出

貴重な経験をさせていただいた9年間

私は、平成14年から平成23年までの9年間、附属天王寺小学校でにお世話になりました。

附属天王寺小学校に赴任して、まず驚いたのは行事の多さです。臨海や林間、運動会、学芸会など、数多くの学校行事がありました。公立小学校ではこれらの学校行事がなくなったり、隔年で行われるようになったりしていることが多いのですが、附属天王寺小学校では、これらが毎年行われていました。教員も子どもたちも、限られた時間の中で準備や練習を行い、完成度の高いものを作り上げていました。ただただ驚かされるばかりで、自分にできるかという不安との戦いでしたが、今となってはその一つ一つの行事がよい思い出です。

私は、附属天王寺小学校に赴任した最初と最後の年に2年生の担任をさせていただき、生活科を担当しましたが、残りは理科を担当させていただきました。附属天王寺小学校には理科好きな子どもたちがとても多く、その期待に応えようと、先輩方に色々教えてもらいながら、何度も実験をしたり、必要な道具を準備したりして、よりよい授業のために、遅くまで理科準備室で作業していたことを今でも思い出します。大変でしたが、楽しい時間を過ごすことができ、自分自身もさらに理科が好きになっていき、今でも理科の授業をしたり、科学実験クラブを担当



清水 大 先生

〈社会〉

（平成15年4月～
平成23年3月）

大阪市立常盤小
学校へ転出

ありがとうございました。

先日福島区に私用で出掛けた折に、堂島川沿いにある「蛸の松」の前を通りました。そう言えば、雛松会の名前が「蛸の松」に由来している……というのを思い出して、つい立ち止まってその枝振りのたおやかさに見入っていました。厳冬の寒さに耐えて緑の葉を茂らす松の木は力強さとひたむきさ……その松の木のイメージに重ねて、附属天王寺小学校の子ども達や諸先輩先生や同僚の教員の顔が浮かび、「自分もその中に居たんだな……」と懐かしさと誇らしさが入り交じった気持ちにしばらく浸っていました。

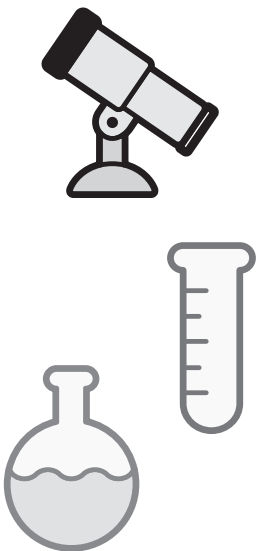
私が在職中に、附属天王寺小学校は130周年の記念式典を迎えました。その式典を迎える年に、私は雛松会の幹事会の世話役を拝していました。その幹事会では幹事の方々がお忙しい仕事の中、都合をつけては集まり「何をすれば子ども達のためになるだろう……」と、熱心に意見を

して様々な実験をすることが楽しみにしています。

また、在勤中には、附属天王寺小学校の同窓会「雛松会」に関わる仕事もさせていただきました。雛松会の幹事の方々には顔を覚えていただいたり、附属天王寺小学校の創立130周年に同窓会としてどのようなことをするのかという話し合いの場に同席させていただいたりすることができました。卒業しても、強く固い絆で繋がっている卒業生の方々様子を目の当たりにして、改めて附属天王寺小学校のよさを感じさせられました。

まだまだ貴重な経験をさせていただいたことは数多くありますが、この9年間でこのような経験をさせていただけたのも、教職員の皆様や多くの子どもたち、保護者の皆様、そして、雛松会の方々には様々な場面で常に支えていただいたおかげです。多くの方々に支えられて過ごすことができたことに、心より感謝いたします。そして、皆様と縁があったことは私にとって一生の宝物です。またどこかで縁がありましたら、その時はどうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、附属天王寺小学校と雛松会の益々のご発展と、皆様方のご多幸をお祈りしております。



重ねていらいっしやいました。会に居合わせた私は「卒業した小学校のために、こんなにも熱心に尽力なさるなんて……」と、それまで勤務した小学校では体験しなかった同窓会「雛松会」の愛情の深さに感動しました。また、母校にこそこれまで愛情を保つことに大変素晴らしい気持ちにもなりました。

ある日幹事の方々や雑談をする中、どの方も当時の担任の先生のことをそれは生き生きとした表情で語られていました。その先生が如何に自分たちに影響を与えたか、如何に信頼していたかという思いが、お話から溢れていました。「自分は将来卒業生にこのように語ってもらえるのだろうか」と思うのと同時に、附属天王寺小学校の伝統の礎にある、諸先輩先生方の「個が生きる学校」の実践の積み重ねに敬服する思いでした。

そう考えると、附小の教員の深い実践の積み重ねが雛松会の今後の繁栄にもつながるといつくことにもなります。私が附小に在職中、その実践のバトンを継承できたかという点、恥ずかしながら十分できたとはいえないません。しかし、教育に携わる一教員として、子ども達が「あのときに自分は変わった!」という学習の心ゆえが自覚できるような実践をこれからも探究していこうと思っています。

今後の附属天王寺小学校の研究実践の発展と、雛松会の益々の繁栄を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

附小NOW近況報告

附天小雛松会担当 高井 大輔

5月19日付の朝刊に掲載されました



立派な紙面ができあがりました。

5月には、5年生の児童9人が、読売新聞の紙面に載せるための記事作りに取り組みました。5月19日付けの朝刊に掲載されましたので、ご覧になった方も多いのではないかと思います。読売新聞の記者の方から、記者としての心構え、取材の仕方、記事原稿の書き方を教わり、自分たちの力だけで取り組みました。学校紹介では「ひなまつ広場」が完成したことにも触れ、ふきぬけにある「悠久の鈴」をメインの記事とした立派な紙面ができあがりました。

『たてわり清掃』…が始まりました。

昨年4月より、「たてわり清掃」が始まりました。前年度から試行的に行っていた活動ですが、本年度より完全実施することになりました。1年生から6年生までが協力して、廊下・階段、トイレ、特別教室の掃除を行っています。それぞれの学年に応じた役割を一生懸命果たそうとがんばっています。



廊下・階段・トイレ
特別教室が
ピッカピカ



がんばれ高学年

特に、高学年の児童はリーダーとしての責任が求められるため、気を引き締めて掃除に取り組んでいます。やり始めてから半年以上経ちましたが、始めは不慣れな様子だった子どもたちもすっかり慣

れ、一生懸命に掃除をする姿が多く見られるようになってきました。附小の新しい伝統となるように、来年度以降も継続して取り組んでいこうと考えています。



岩崎由紀夫校長先生を偲んで

附属天王寺小学校副校長 八木 義仁

載することになりました。第1回目は新会長に就任された西川雅夫様との対談でした。インタビューも終わり、原稿に仕上げている途中、先生はお亡くなりになりました。初校の段階では岩崎先生の写真を掲載する予定ではなかったのですが、西川様に配慮いただき、西川様と岩崎校長とのツーショット写真を使わせていただきました。

臨海学舎から帰ってきた翌日、岩崎由紀夫校長先生は突然逝ってしまわれました。私も先生方も子どもたちも、何の心の準備もできずお別れしなければならなくなりました。

平成23年は、雛松会の130周年でした。その記念事業の一つである「ひなまつ広場」のリニューアルに際しては、「四季を感じる場所に」

「子どもたちが集える場所に」などのアイデアを出していただきました。また、レイアウトの変更にも意見をいただき、今では寒い冬でも子どもたちの遊ぶ声がかわついていただけに、響く広場になりました。

また、昭和47年から刊行している「天王寺教育ノート」のリニューアルに際して、雛松会員のコーナー「卒業生をたずねて」を掲

このように、この1年だけでも雛松会との深い『絆』で結ばれていた岩崎先生。平成24年3月の任期満了後も、附属天王寺小学校のOBとして、小学校や雛松会にかかわっていただけではありません。たいへん残念なことですが、今となっては、ただご冥福をお祈りするばかりです。

訃報

この1年間に次の3名の恩師の先生方がお亡くなりになりました。慎んでお悔やみ申しあげますとともに心からご冥福をお祈り致します。

岩崎由紀夫先生 (美術教育学 学校長)	昭和23年7月16日 ご逝去	平成20年4月 平成23年7月
久島 能男先生 (国語科)	昭和23年11月16日 ご逝去	昭和29年4月 昭和45年3月
信垣 茂男先生 (音楽科)	昭和23年12月20日 ご逝去	昭和43年4月 昭和51年3月

「雛松会130周年記念総会・懇親会報告」

昭和54年卒 櫻井 忠孝

2011年4月3日(日)、参加者240名。

いろいろな思いを胸に、雛松会130周年記念総会は開催されました。

過去に例を見ないマグニチュード9.0、全てが想定外の大惨事。開催も賛否両論で、私も幹事の二員として開催中止か、直前まで幹事会での議論の末、「こんな時だからこそ」の開催でした。

皆で黙祷の後、130周年のお祭りムードでは無く、ピリツと締まった開会となりました。総会にあたり、銭高善会長のご挨拶の後、昨年7月急逝された岩崎由紀夫校長先生より、ご挨拶を頂き、爾々と総会は進行了しました。銭高会長より新役員の承認ならびに紹介の後、赤尾滋樹会計幹事より会計報告があり、本総会で承認されました。いよいよ懇親会。新会長に就任された西川雅夫会長のご挨拶から始まりました。

本年度のアトラクションは全て自粛し、雛松会より東北復興義援金のご承認の後、こぼれ会の辻本茂先生のご発声による乾杯とともに食事と歓談の時間に行っていました。

本懇親会中、沢山の同窓会が開催され、東日本大震災で被災された同窓生や、現場で活躍されている同窓生の安否を気にしながら、それぞれの学年で同級生の活躍と安否を確認、皆が元気に再会できたことの喜びはひとしきりでした。

八木義仁副校長先生による学校の近況報告を経て、安田美津子副会長の指揮のもと240人による校歌・スクールソング斉唱の後、岸本光正副会長の閉会の挨拶で閉会となりました。

幹事の二員として、この報告の原稿を書きながら、3・11から一年、改めて去年を振り返りながら、被災されました雛松会の会員の皆様、また復興にご尽力されておられる会員皆様の御身の御自愛頂きます事を祈念いたしまして総会のご報告とさせていただきます。

130周年記念総会

雛松会

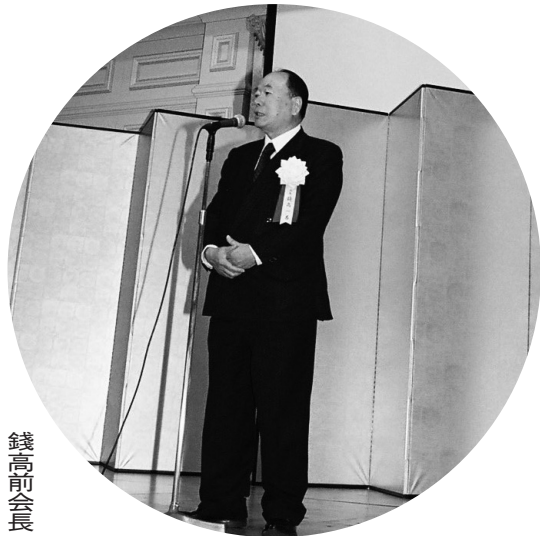


式次第

雛松会130周年記念総会

- 一、開会の挨拶 雛松会 銭高 一善
- 一、名誉会長挨拶 附属小学校 校長 岩崎由紀夫先生
- 一、来賓の御紹介 雛松会 銭高 一善
- 一、新役員御承認の件 雛松会 銭高 一善
- 一、事務局より御報告 雛松会 事務局 赤尾 滋樹
- 一、閉式の辞 雛松会 副会長 吉村 計三
- 雛松会130周年記念懇親会
- 一、開会の辞 雛松会 副会長 西川 雅夫
- 一、乾杯 雛松会 副会長 西川 雅夫
- 一、母校近況報告 附属小学校 校長 八木義仁先生
- 一、校歌斉唱 指揮 雛松会 副会長 安田 美津子
- 一、閉会の辞 雛松会 副会長 岸本 光正

アトラクションは自粛



銭高前会長



故岩崎前校長



銭高前会長に西川新会長より花束贈呈

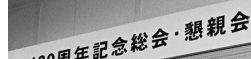


「ひなまつひろば」の目録贈呈



岸本副会長による閉会の挨拶。「がんばろう！」の掛け声で心をつに。

被災された方々に黙祷捧げる



今尚、我ら同其の大勢の主治医であり、孫さんが附小に通学しているDr.

我々同期は卒67周年を迎えました。130周年の半分余りで、改めて学校の歴史を感じさせられます。10年前の20周年記念総会には、古希の同期会（参加21名）を併せ行わせて頂き、平成16年に卒60周年（参加22名）平成20年に喜寿（参加19名）の同期会を行い、今回も記念総会に奉寿の同窓会を同時開催させて頂き、男10名女6名が参加しました。

会長方の挨拶に続き、

塘が代表で挨拶。そして雛松の近くにセツと孫もつらつ卓を囲み、孫達よりも幼い頃の思い出や、昔馴染みの先輩後輩とも語り合い、あつと言う間の2時間でした。

総会終了後、2次会を同ホール1階のラウンジで和やかに、意気盛んに毎年同期会と、解散しました。

震災で危うまれた会も雛松の役員幹事のご尽力で開催され、感謝申し上げます。



未曾有の東北大震災直後の総会開催した。日中が達力に暮れ、深い悲しみに沈んでいる状態の中、集まった友のいつに変わらぬ顔に、何とも言えない安否を憶えまた。大会場を埋め尽くした友達の卒業生の中の私同期1人なのだと、130年という長い歴史ある母校の同窓会を重みを肌で感じました。又、とりとめもない話の中で、に自分の歴史を知ってくれている友に囲まれていた幸さに感謝しました。今まで、小学校の同

期会は、何故か疎遠になりがちだったので、これを機に、6年間の貴重な日々共に過ごしたかけがえのない仲間達との絆を、恩師の思い出を語ながら、今一度結ぶ直したい、強き思いました。

I T時代の現在、難松会員の尽力で、母校の情報を自宅のパソコンで居ながらにして見事ができる様になりました。

私達の心のよりどころ、附

安田美津子(昭和32年卒)

出を語りながら、今一度結び直したいと強く思いました。

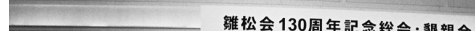
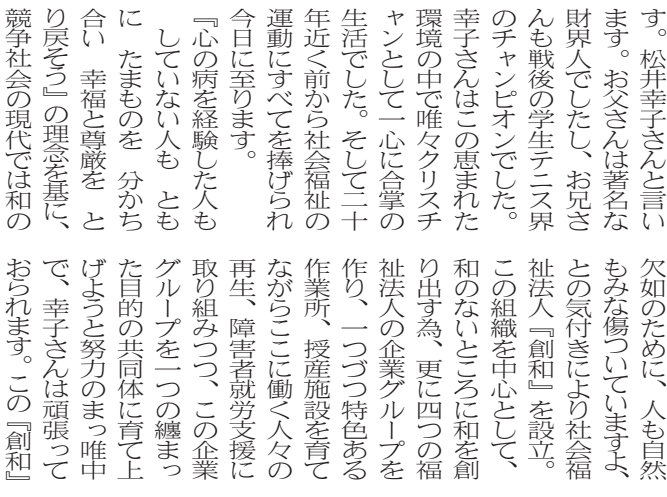
I T時代の現在、雛松会員の尽力で、母校の情報自宅のパソコンで居ながらにして見る事ができる様になりました。



クルフと云ふ。心の傷を
持つた人々が、それら々々の
治療施設を経て社会復
帰、社会参加をサポート
する社会福祉法人ですがし
かし、一般社会からは精
神障害者の受け入れ中々
のハード…。

彼女は神に祈る量々の
心で、これらを受け入れ
るべき事に取り組まれ
ます。たが大変なと思いま
す。

どうか皆様とも是非応
援（おかげ）下さい。



男子入学生は、民学校初等科と高等科が併置された最後の学年で卒業した。

○：6年生になって旧制中学、女学への進學準備にとりかかっていたら、担任の黨馬重一先生から「受験勉強はなくてもよいから、君たちは自動的に中学校、男女共学校に進めるようになった」と言われてびっくりしているやうに書かれている。六・三制と呼ばれる学制改訂が実施さ

民学校初等科と高等科が併置された最後の学年でし
た。

○六年生になって旧制中学、女学校への進学準備にとりかかっていたら、担任の堂馬重一先生から「受験勉強はしなくてよくなった。君たちは自動的に中学校（男女共学）に進めることになった」と言われてびっくりするやら喜ぶやら、いわゆる六・三・三制と呼ばれる学制改革が実施されることになったのである。戦中から戦後にかけて、価値観が百八十度転換した。正に疾風怒涛の時代だ。たわけて、未熟な私の教育に当られた先生の「苦労がしのべれ
ます。

○東日本大震災直後とあって、関東在住の諸君が参加できなかったのはとても残念でした。しかし東京・世話役三木忠君がながかしい写真を送ってくれました。なかでも

條科日南備（現富田林市）の楠母神社境内前で撮影されたものである。他に1955年生、57年生の頃の教室風景などあり、四葉の写真をかこんで出席者全員大いに語田を語り合ったことができた。

（出席者・50音順）

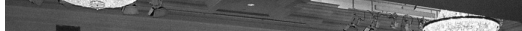
赤羽二、井浪豊一、駒田出男、隅田喜郎、中西、西慶、修、則本博、福井洵、福岡美彦、三谷新一郎、宮本市松。

お身内のご不幸の弔問等

戦争末期の混乱した中、南河堀町の旧付属小を巣立つた私たち64期生は、戦争中に亡くなった方、消息不明の方や、戦後になって亡くなった方々を除くと、15名中僅か6名が、現在八十路の旅を歩んでおります。

難松会120周年総会には、在阪の戸樫さんと呼びかけて、恩師野敵夫先生のお見舞かたがた4名の同期が出席しました。これまでも不定期で

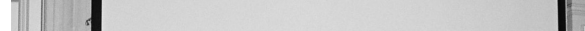
昔話に花を咲かせることもありました。難松会総会は全くはじめてのことであり、出席した私たちは、盛大な総会の雰囲気は終始のまれっぱなしで、時間を過して帰って来ましたが「元日や冥土の旅の一里塚」とやら。私たちも一刻一刻が貴重な時間となりましたが、健康で難松会総会に出席できたことに願っている今日この頃です。



A black and white photograph of a woman with short dark hair, smiling at the camera. She is wearing a patterned jacket over a white turtleneck. She is seated at a table with several dark glass bottles and glasses in front of her. The background is slightly blurred, showing other people and the interior of a restaurant or event space.

とも共にするか、随小町仕
にもどり、非常になつか

昭和5年卒）
難松会の130周年記念誌に私たち89期生も13人の同窓生が集まりました。小学校を卒業して30数年ぶりに出会う友達もいました。最初はお互いの近況報告から始まり、その頃のクラスや友人のことなど、時間たつと思います。しいひとをきき過す事のできました。また現在の学校の様子や校歌を聞く、ますます私たちの境で通学していた私たちのほうが、楽しんで素敵なものであったと、ふ思ひ出しました。これを機にまた89期が集まるのができたいと思います。



しいひとときを過ごす事ができました。また現在の学校の様子や校歌を聞くと、ますます私たちの通学していた頃の環境が、楽しく素敵なものであったと、ふと思い出しました。これを機にまた98期が集まる事ができたらと思います。

河内郡東条村の楠公夫人ゆかりの楠此庵こひい若

長年続いた尋常・高等小学校は、昭和16年4月から、国民学校（初等科・高等科）に変わった。私たちは、その国民学校に1年生として入学した。最初児童であったが、国語の見聞き貢は、「サイタサイタ：」から「アカイアカイ！」に変わり、「みんなでべんきょーうれしいな」国民学校いちねんせい」と歌った。昭和19年（4年生）秋にかの「疎開」が実施され、同年の男女合計約90のうちの、疎開不要の地域に住む者と縁故疎

草堂に集団開し、親元を離れて先生と起居を共にした。

戦争が終わった昭和20年（5年生）の頃、近く二学期の終わりに、母校における授業は再開された。だが、そのわずかに一年数ヶ月後、私たちが初等科を修了した昭和22年3月をもって、国民学校は短かかった年間間の募集を閉じた。数奇な体験をした私たちが、66期に入社した。小学校に入ったことのない、唯一の学年になったのであった。

自然と口づさんでしまひます。昭和24年の卒業ですが3年生は戦の年で、大きな変化のある時期で、でしたが、学校内は、変し熱心な先生方、やさしい友達、楽しかった光景が思い出されます。創立130周年を迎えた難松会は、同期生だけでなく先輩後輩ともに楽しく語り合える場でした。新しい発見もありました。身体の弱かった母のころ、

仲良しだった弟を、私に声をかけて下さる友「ありがう。」。又「同期生の娘さん（難松会員）がお子様（附小学生）を連れてよ、お会いし、笑顔で話かけて下さいます。

歴史を感じ今日この頃です。

「ランドセルフレンド」も替え難い財産、であと、の再会を、こゝで待ち、り、尽きない昔話、絶え



ました。附小を卒業してから35年振りとあって、懐かしい顔ぶれに大変感激しました。

昭和52年卒)

の大切さ」でありました。初めて出席した懇親会でしたが、各年次での盛り上がる様子を

田先生を匪んで懐かしい
母校での思い出話。附小

(昭和41年卒)
雛松会130周年おめでとございます。85期生12名が集い、担任の池

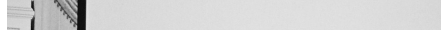


！口・高の同窓会であ
青松同窓会では、私の

昭和5年卒）は、そこそこの中堅とい
ところなのですが、雛
というところで、久しぶり
ではまたまた若手！で
に参加させていただきま
した。

た松し
は、卒業以来思い出すこともなかったのに、ちゃんと歌える自分にびっくりし、又、ためて感じた一日でした。當時は何も考えずに口ずすた。

その後の二次会では、今から食事会と
思ふ程の料理を目の
前に話題も尽きず、
賑やかなひとときを
過ごしました。話す
声や笑顔は、何歳に
なっても小学生の頃
と変わらないもので
すね。附小で培った
初心を大切に、明日
も頑張ろう!とあら



た。初めて出席した懇親会でしたが、各年次での盛り上がる様子を目にして「これを機に、自分達の学年も同窓の輪を拡げてゆこう」と思いました。最後に、雛松会がこれか

を努めながら感じた事も「幼少を共にした学舎での友達は何物にす。事も心より祈念致します。

ひさし
ぶし



(昭和58・59年卒)



(昭和55・56年卒)



(昭和53年卒)

記念総会で 同期会 (大盛況) おひさしびりー フلامenco オウし 皆さんノリノリ



進藤乾あつ子 (昭和27年卒)

染色作家で多忙な毎日を送っておられる71期の進藤あつ子さん、東京から駆けつけて下さいました。「自然から三百種類の色を創り出す職人」と、世界中に高く評価されておられます。昨年はジュネーブ、パリで作品展をされ大好評を博されました。世界各地から、たぐさんのオフアアが活躍されておられます。その中での、総会ご出席でした。
(お電話でお話を聞かせて頂きました。文責安田)

和田有子 (昭和49年卒)

チームフلامenco ピンと背筋を伸ばしギョッとお腹に力を入れ、笑い絶えぬ充電の調子を奏でれば、そこはもうアンタルシアの街角。思い起こせば一昨年の夏、安田美津子さん(76期)宅のリビングルームでチームフلامencoは結成されました。訳も分らず集まった十数名の目的は一つ。雛松会総会でフラムencoを踊るぞ！として福田三恵子先生(76期)の指導のもと、

総会で同期会(大盛況)でおひさしびりー

市川順一 (昭和38年卒)

2010年4月24日

同窓会には楽しい。懐かしい顔、昔話に花が咲く。



中出安子 (昭和43年卒)

附小87期会を2010年5月15日に行ないました。恩師の三村幸男先生と共に、水陸両用バスに乗りこみ約100分の「大阪ダックツアー」へ出発。目立つ車輦に通行人から手を振られたり、川へザップンに



お詫び

82期と87期の同期会報告は、昨年第42号での掲載予定でしたが、紙面の都合で今回43号での掲載となりました。お詫び申し上げます。

ひさし
ぶり〜



恩師の先生方からメッセージ

昨年開催された雛松会130周年記念総会の出欠返信はがきに書いていただきました恩師の先生方からのメッセージを掲載させていただきます。

西本 繁夫先生（昭和10年4月～昭和29年2月）

私は附属小学校の教官を終わってからは、大阪市教育委員会の指導主事や大阪芸術大学の教授となり、日本の図画工作、美術教育の振興に勤めました。平成22年11月に99才となりました。

白木 實先生（昭和16年4月～昭和18年3月）

（昭和26年4月～昭和39年3月）

雛松会130周年記念総会おめでとうございます。小生90年の人生のうち高等科児童2年、また教員として15年在籍し、附小発展に参加できたことは大変光栄であり、幸運であったと思います。体調不良のため、総会当日は参加できないことは残念でお詫びのしようがありません。今後のご発展をお祈りいたしております。

成田 重明先生（昭和17年10月～昭和22年3月）

現在99才（白寿）独居生活中。まず健康体で日夜筆とたわむれています。雛松会130周年記念総会共に懇親会のご盛会を祈念いたします。

久島 能男先生（昭和29年4月～昭和45年3月）

私が附小にお世話になっていたのは半世紀近い昔のこと。まさに往時茫茫という想いがいたします。今のところ、五体いささか不自由ながら、憎まれ口をきくゆとりだけは残して、何とかくらししております。みなさんのご活躍を祈っております。（※久島能夫先生は平成23年11月16日にご逝去されました。）

宝示 重美先生（昭和29年4月～昭和47年3月）

年を経し、息の乱れの苦しさに//生きているのが厭になっているのに元気!!

辻本 戊先生（昭和30年6月～昭和48年3月）

本年80才になります。ますます元気にしています。若い頃のように活力は有りませんが、病気がないのでゆっくりと日々をおくりたいと思います。

日高 敬造先生（昭和42年4月～昭和56年3月）

満75才になります。平成22年3月より大阪府立大学大学院前期博士課程に通っています。

漕江 陸郎先生（昭和45年4月～昭和61年3月）

雛松会130周年おめでとうございます。附小で16年間勤めさせていただきましたが、なつかしい思い出ばかりが浮かびます。私もいい年になり、記念総会には出席したいのですが、体調がよくない日も多くなり、欠席にさせていただきます。ご盛会を願っています。

川村 一郎先生（昭和45年4月～昭和57年3月）

3・11・9・0。この数字は忘れることはできないであつ。何らかの形で手をさしのべたいが、一人ではどうすることもできない。

小生、体調十分とはいえない。「持病があつても、何とか毎日を快適に過ごすことが出来れば、それも健康」と思っている。

杉野 信義先生（昭和46年4月～平成3年3月）

雛松会130周年誠にありがとうございます。附属を離れて20年が経ちます。在職20年の間に100周年110周年を経験し、コーラス部の発表や司会をさせてもらったことを思い出します。附属での教え子が、今各界ですばらしい活躍をしていることをとてもうれしく思っています。今後益々附天小が発展されますこと、関係各位のご活躍をお祈りします。

大橋 光雄先生（昭和48年4月～平成7年3月）

早いもので附小を離れて16年になります。今年で63才になりますが、附小に赴任した時は24才でした。以来22年間忙しかったけれど楽しく勤務いたしました。教え子達も成人し、今はその子どもを教えることもあります。数年間雛松会を担当し、名簿作成や掲載する広告集めに苦労したことが思い出されます。

東元 イツ子先生（昭和50年4月～昭和55年3月）

130周年おめでとうございます。多くの方に支えられ、この130年にたどりついたこと存じます。この長きにわたり、支えてくださった方々のお力のすごさに言葉が見つかりません。これからの益々のご発展をお祈りいたします。

松井 真美子先生（昭和54年4月～昭和56年3月）

いつも有難うございます。教職を離れ、10数年が経ちました。現在はcafeを営業し、マクロビオティックという食事に取り組んでいます。「食育」が注目され

嬉しい限りです。「食べる」ことの大切さが「いのち」につながっているという考えを続けていこうと思っております。皆様のご健康、ご活躍をお祈りしております。

坂元 健一先生（昭和55年4月～昭和60年3月）

教職を離れた後、8年間の嘱託勤務をこの3月で終え、今ほっとしています。14年前から大阪市の市民農園を借りて土いじりを楽しんできました。この冬は立派な大根が育ち近隣の方々にもお分けさせていただきました。もう一つの楽しみは、歌唱です。少年の日の夢でした。毎回いただいた課題をクリアするためにじっくり取り組んでいます。

服部 敬一先生（昭和60年4月～平成20年3月）

雛松会130周年おめでとうございます。この度、完成した「ひなまつ広場」は、とても明るく開放的で、子どもたちがホッとできる場所になると思います。休み時間になれば、子どもたちの元気な声が響くことでしょう。

松浦 宏先生（昭和63年4月～平成6年3月）

大阪教育大学退職（平成11年3月）、12年間（東大阪短大／奈良産業大学）、大学及び教員生活を続けて来ましたが、平成23年3月をもって、それにピリオドを打つことにしました。通算して49年間、約半世紀の長い間、教育心理学を軸に心理学と教育の関係を追究して来ましたが、まだまだ重要なことが残っているような気がします。幸い元気ですので、何らかの形で続けられたらよいと思っています。

竹本 封由之進先生（昭和63年4月～平成9年3月）

大阪大谷大学（旧大谷女子大学）で、教員志望の学生に図画工作科の教え方を教えています。附属天王寺小学校を離れて10年以上経ちますが、今でも街中で「先生」と声をかけてくださる卒業生に出会い、心温まります。末長い雛松会のご発展を心よりお祈りいたします。

大野 節子先生（平成11年4月～平成19年3月）

雛松会130周年おめでとうございます。現在、大阪市立荻田小学校教頭として勤めております。

松岡 克典先生（平成11年4月～平成20年3月）

雛松会130周年おめでとうございます。現在、奈良市あやめ池に移転した近畿大学附属小学校に務めております。近鉄線、JR環状線ですれちがう附属天王寺小学

雛松会会員名簿第13版発刊のお知らせ

平成24年11月末
発刊予定
定価3,000円

ご希望の方は同封の払込用紙（名簿用）にてお申し込み下さい。出来次第お送りさせていただきます。
尚、卒業年・会員コードナンバーを必ずお書き下さい。

校の子ども達を見かけると懐かしく思わず凝視してしまします。雛松会の益々のご発展と皆様のご健康をお祈りいたします。

萩原 武士先生（平成12年4月～平成16年3月）

前略、いつもお世話になっていきます。この度、雛松会が130周年記念を迎えられるとのこと、心からお祝い申し上げます。退職しまして早や5年が経ちました。ありがたい事に日々は好日の毎日を送らせて頂いております。附属天王寺小学校関連の皆さまの益々の御活躍とご発展を祈っております。合掌

西川 理嘉先生（平成12年4月～平成22年3月）

在職中は大変お世話になりました。記念総会および懇親会のご盛会をお祈り申し上げます。

田村 真由子先生（平成21年4月）

平成23年1月18日に長男が生まれ、現在育児中です。妊娠中は入院、安静生活になってしまい御迷惑をおかけ致しましたが、無事元気に出産でき、心配していただいた皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。

級・友・か・ら・の

近

況

報

告

エ・ト・セ・ト・ラ

昨年寄せられた近況報告の中から掲載しています。年に1度の会報発行ですので、タイムリーに報告出来ないのが残念です。

昭和5年卒

藤田 タミ(旧姓安中)

長く生きるつもりはなかったのですが、93才になりました。同窓の方は少い頃ですし、男子は沢山お国のために亡くなっておりまして現在在世の方も少いと思います。が、どのような状況になって居りますやら。

昭和6年卒

石橋 始子(旧姓向畑)

前略一人暮らしの私(92才)は外出は無理ですが、何とか元気です。会の御発展をお祈りしております。

昭和7年卒

大野 敏夫

「頑張ってウォーキングを続けよう 介護を受けずに天寿全う」卒寿をこえた年寄りの念願ですが、希望通りなのでせうか？

昭和8年卒

衣笠 綾

もう何十年も昔、皆仲好しで明るく遊びました。よく遊びよく遊びました。そのなつかしい思い出を胸に生きてきた様に思います。本当に良い学校でした。有難うございました。最高の小学生時代を過ごさせて頂きました。皆様の御活躍をお祈りしております。

昭和8年卒

矢島 佐知子(旧姓川澄)

御蔭様で90才になりました。古い木造の校舎が今でも夢に出て来ます。同級生も次第に少なくなりましてが、担任故山本才治郎先生のお友達の若かりし日のことを思い出しております。幼少時の教育の大切さを思い知らされております。大阪までは中々伺えません。御繁栄を。

昭和9年卒

稲田 武之

本年度で満90才を迎えます。体調は良好で元気に暮しております。趣味三昧に書道、出展、小唄出演、内外の旅行、観劇、邦楽鑑賞、読書と充実して人生を楽しんでおります。7年前妻に先立たれ、独り暮らしですが、一切介護はうけず、すべて自分でやって生活しております。時々子供、孫も訪れますので、独りでの感じはありません。

昭和9年卒

遠藤 一隆

会員名簿で、真城利三郎氏だけが生存しています。彼は耳が悪く電話では話せません。残念です。小生も今年91才で教え子の同窓会に毎年出席しています。

昭和9年卒

白川 満恵(旧姓西阪)

130周年記念おめでとう、ございます。7月で90才ですが、元気で生きております。約50年が過ぎて同期のお友達の若かりし日のことを思い出しております。

昭和10年卒

佐々木百合(旧姓大野)

年を取って来ましたが附小のことは割合に思い出してなつかしいです。

昭和11年卒

小杉 桂二

思い出してもなつかしい。天師附小学校の木造の校舎、思えば昭和5年美しい万国旗のはためく教室へ、当時の平岡先生がニコニコと迎えて下さった。右も左も知らん友人ばかり、最高の緊張であった。あれから何年経つのであろう。今や米寿を迎える今日この頃である。天師附も相変わらず元気らしい。私も元気でやってゐるぞ。附小の永遠の発展を願って一筆。

昭和11年卒

大西 英子(旧姓福井)

昭和11年生は、河堀校舎私共31期生は、

昭和12年卒

松島 永之助

130周年記念の総会ですが出席できず残念です。1昨年、膀胱がんの手術して以来、足腰の弱りの上、昨年の猛暑、また何年ぶりの寒波に困っております。昭和12年卒組は現在87、88才位ですが、毎年1回は男女10数名で、集会、会食をしております。山岡康氏のお世話です。

昭和13年卒

伊豆野 和子(旧姓山本)

卒業して73年、古い校舎で学んだ当時をなつかしく思い出しております。寄る年波でひざが少々痛く、遠出はしております。仲の良かった東田さんも亡くなられ淋しくなりました。家の近くにはずっと後輩も居られますが、とにかく夫婦健康で静かにくらしております。(2年生の時、青木先生の指導でラジオに出て独唱した思い出があります)

昭和13年卒

登山 敏子(旧姓中新井)

孫7人、曾孫6人、特に育ち盛りの曾孫にエネルギーを貰っています。

昭和13年卒

牧田 葉子

生田流箏曲習業会を主宰し、兵庫県の国際交流に等と美しい日本の歌を携え、北半球・南半球の世界友好

昭和13年卒

松崎 澤子

3月11日の東日本大震災で、我が家は無事でしたが、何かとごたごたしております。実は私は、4年の2学期末まで在籍しておりましたが、父の死亡のため母と東京に移りましたので、本当は13年卒業ではございません。それでも御校に在籍しておりましたことは今でも誇りに思っております。これからもますます立派な学校となりますようお祈り致します。

昭和15年卒

加藤 光二

昭和15年卒業の私達も平均寿命を越え、昔ながら長寿といわれる年齢になり、年賀状を交換していた同級生も少しづつ減ってきて淋しく感じる様になりました。残された人生を大切に有意義に過ごしたいと思っております。

昭和15年卒

岩山 久子(旧姓石田)

83才ですが、ドラッグストア一本堂麹町店で管理薬剤師をしています。8:30-17:30、立ちっ放しでスゴク元気です。

昭和15年卒

大浦 照子

マグロの如く生きています。アウトドアの楽しい日々です。

昭和16年卒

橋本 文男

天王寺師範附属尋常高等小学校、高等科2年を卒業して、天王寺師範予科3年修業、本科3年卒業との先生になるために2+3+3=8年かかりました。堺市の先生で同じ経歴で先生になつてゐる人は10年先輩の野口先生と1年後輩の正木先生と私の3人でした。25

昭和14年卒

長崎 三明

86歳になり同級生も多くは亡くなり、私もいつ旅立つてもおかしくありません。雛松会の便り、すみずみまで目を通しています。その都度、70年以上も昔のこと

がよみがえりなつかしい限りです。何回か前の紙面に同級生船越筆子さんの筆記がのっていました。今でもお元気でしょうか。

昭和14年卒

谷川 喜美子(旧姓前野)

走馬燈が廻り古き思い出を頭に浮かべ、久しくセンチメンタルの世界に入り、一刻を楽しく過す事が出来ました。有難う！

昭和15年卒

上田 誠也

3月26日に金森順次郎君と偶然お会いしました。そうしたらその晩に柴谷一慶君から早速電話を頂きまして。卒業以来のこと、なつかしく思いました。来年こそはと思います。

昭和17年卒

松井 幸子

精神障害者の社会復帰支援のための社会福祉法人「創和」を設立運営しています。入間市では精神の福祉施設は創和だけです。殺ばつた世の中、心の健康を損う人はふえる一方、その中味も複雑化しています。トータルな国の施策が求められます。地震を機に皆が助け合つ世の中になるといいですね。

昭和17年卒

安岡 悦子(旧姓片岸)

腰痛をかばいつつ家事やパソコンに専心、当日は町会役員当番、桜まつりでお手伝いします。我家から道路へだてて30余本の桜のある公園で行われます。満開になると見事で居ながらにして桜見物を楽しみます。

昭和17年卒

長谷川 貞子(旧姓前田)

日野原重明先生の「つら

年学級担任、5年間教頭、10年校長として昭和62年に退職、現在85才になります。附属を卒業し先生になった事を私の最も誇りとしています。

昭和16年卒

吉田 謙

眼が見えにくくなりまして、毎週孫の手料理を楽しみに生きています。

昭和17年卒

野村 道一

元気に致しております。毎日1時間半〜2時間歩くことを続けて、また、山登りも続けております。体の方はどこも問題ないのですが、年と共に頭の方がしんどくなって参りました。年1回、附属小学校の方を歩いております。実になつかしい思い出が、一杯出て参ります。

昭和18年卒

生田 眞平

昭和13年入学、昭和19年卒業、附小の教育でも最も激しい軍国教育を軍隊婦りの多田先生から受けました。鬼畜米英のことは今でも忘れません。今年4月に満80才を迎えますが、多くの友人を失いました。私も現在京大病院に心臓病、脳出血、胃潰瘍、その他で入院をくり返しています。出席したいのですが、残念で乍ら欠席させて頂きます。

昭和19年卒

伊加利勝暗(旧姓一柳)

遠隔地故参加出来ませんが、当方、日常的には年相応元気に過ごしております。趣味の「バラ栽培」にも励んでおります。(日本バラ会審査員)。

昭和19年卒

宮地 美都子(旧姓貴志)

私達のクラスは皆一年以内に80才になります。この年になれば足腰が痛かったりどこか故障があつても致し方ないと思います。認知

い経験は自分を強くする、10年校長として昭和62年に退職、現在85才になります。附属を卒業し先生になった事を私の最も誇りとしています。

昭和19年卒

荻原 一郎

年には勝てませんが、元気に暮らして居ります。ぼちぼちハンドルやクラブを手放すべきかと思いつつ、畑仕事、ゴルフ等屋外が多いです。

昭和19年卒

河井 迪夫

小生昭和19高等科卒の落ちこぼれながら傘寿の坂を越えました。省線「寺田町」駅から通学した少年時代が懐かしく思い出されます。輝かしい歴史と伝統の雛松会が益々発展されますようお祈りしています。

昭和19年卒

大井 孝子(旧姓荒木)

小学校時代の後期は戦争の思い出ぬきでは考えられませんが、思えば入学してから前半は楽しい思い出と充実した学生生活を満喫した様に思います。あの時代の事で今現在の生活に大きな力になっている事が今つくづく思われます。恵まれた小学校生活でした。感謝です。

昭和19年卒

塩田 節子(旧姓伊藤)

子供3人(男1人女2人)も雛松会員ですが、それぞれ親としても立派に活躍して居ます。私は2年前に主人を亡くしましたが、やっ

昭和19年卒

真銅 瑛(旧姓中井)

雛松会130周年おめでとう御座います。古希(77才)を迎える年になりますと、身心共々痛んで来て居ります。当時受持先生の奥田先生も亡くなり、淋しくなりました。

昭和22年卒

隅田 喜郎

昨年11月に77才喜寿を元気に迎えることが出来ました。今年は、年2回開催されるSTGマスターズ水泳大会の60回連続出場記録を楽しみにしています。

昭和19年卒

宮地 美都子(旧姓貴志)

私達のクラスは皆一年以内に80才になります。この年になれば足腰が痛かったりどこか故障があつても致し方ないと思います。認知

症だけは先のばしにしたいものと、そのためには出来るだけ外へ出て、歩き、会話をし、絵を描いたり、ピアノを弾いたり、今のところはそれが出来ることに感謝して居ります。

昭和20年卒

平木 玲子(旧姓倉上)

未曾有の大震災、津波、原子力事故と厳しい日本の状況でございます。一日も早く復興し、平穏を皆様様の健康をお祈り致して居ります。

昭和21年卒

弘世 泰子(旧姓池田)

昭和20年3月1日の大阪の空襲で実家が焼け、東条村の集団疎開地から離れ、卒業は出来ませんでした。昨年迄成田先生を囲み、毎年クラス会もありましたが、年々、生徒の方の数も減り、会も終りになり、寂しくなりました。私はボツボツ、足を鍛えるために六甲の山の上でゴルフもし頑張っております。

昭和21年卒

大井 孝子(旧姓荒木)

小学校時代の後期は戦争の思い出ぬきでは考えられませんが、思えば入学してから前半は楽しい思い出と充実した学生生活を満喫した様に思います。あの時代の事で今現在の生活に大きな力になっている事が今つくづく思われます。恵まれた小学校生活でした。感謝です。

昭和21年卒

塩田 節子(旧姓伊藤)

子供3人(男1人女2人)も雛松会員ですが、それぞれ親としても立派に活躍して居ます。私は2年前に主人を亡くしましたが、やっ

昭和21年卒

真銅 瑛(旧姓中井)

雛松会130周年おめでとう御座います。古希(77才)を迎える年になりますと、身心共々痛んで来て居ります。当時受持先生の奥田先生も亡くなり、淋しくなりました。

昭和22年卒

隅田 喜郎

昨年11月に77才喜寿を元気に迎えることが出来ました。今年は、年2回開催されるSTGマスターズ水泳大会の60回連続出場記録を楽しみにしています。

昭和19年卒

宮地 美都子(旧姓貴志)

私達のクラスは皆一年以内に80才になります。この年になれば足腰が痛かったりどこか故障があつても致し方ないと思います。認知

昭和61年卒
藤田 晶子（旧姓大野）
昨年、長男が入学させて
います。日本人があまりいな
い環境の中、自分を追い込
んで様々なことを吸収した
いと思っています。

平成23年度

年会費納入者氏名

(平成24年 1 月末現在・敬称略)

特別賛助会員

大西 英子・山本 暉郎・柴田 俊治・辻本 節子・安田 美津子・西川 雅夫・秋田 光彦・木下 吉信・西村 泰彦・上尾 礼子・竹野 元二・竹野 悠佳・石井 聖加・吉村 計三

賛助会員

柴田 稔・柴谷 一慶・塩田 節子・中川 操・曲田 勝紀・秋田 光哉・平田 健

大正15年卒

佐藤 美紗子

昭和 6 年卒

和泉 國夫・竹内 幸男

昭和 7 年卒

大野 敏夫

昭和 9 年卒

西宗 寛子

昭和10年卒

筑紫 敬五・川村 太郎・後藤 寛・三輪 一枝・佐々木 百合

昭和11年卒

芹原 幸二・佐藤 恵・大西 英子

昭和12年卒

高折 忠太・山本 暉郎・松島 永之助・小川 定子・堀田 朝子・今市 芳・鷲尾 和子・豊島 実枝子・大道 喜久代

昭和13年卒

金川 博武・坂本 成男・佐用 淳子・倉知 園子・伊豆野 和子

昭和14年卒

永田 文夫・前田 実・井上 皆子・菊池 富美子・坂部 春子

昭和15年卒

小畑 哲雄・加藤 光二・吉松 昌子・岩山 久子・上田 富美子・鈴木 洋子

昭和16年卒

勝又 朝昭・庭山 昭・保呂 和彦・門戸 良太郎・伊藤 利子・奥川 章子・田中 紗智子・山崎 典子・田辺 悠紀子・阿部 幸子

昭和17年卒

茨木 修・村上 節也・金森 順次郎・黒田 節哉・柴田 稔・柴谷 一慶・中西 妙子・伊藤 英子・伊海田 住子・松井 幸子・長谷川 貞子・山田 美恵子・西島 瑞枝

昭和18年卒

久貴 忠彦・柴田 俊治・田村 新十郎・正井 迪夫・菊野 妙子・長尾 裕子・近藤 光・野村 道一

昭和19年卒

岩田 由雄・荻果 一郎・片上 逸麿・齋藤 尚・十場 甚吉・塘 二郎・本間 琢也・森口 五郎・塩田 節子・高久 美也子・藤田 美智子・國武 洋子・中川 操・横山 清恵子・石丸 省三

昭和20年卒

鶴巻 佐藤 孜・辻元 一郎・本郷 二郎・三宅 克彦・野島 精二・鍋 貴志子・萬年 明子・岩田 博一・奥原 福夫

昭和21年卒

土肥 孝治・西村 友子・小川 やす子・渡邊 昌子

昭和22年卒

濱本 敏孝・浦谷 佳邦・瓜原 一敷・駒 日出男・中西 卓・福岡 美彦・福井 洵・三宅 忠三・宮本 新一郎・宮本 市松・和爾 越城・山田 誠禧・東 成子・師岡 織枝・石原 さよ子・堀内 盈子・徳永 晴子

昭和23年卒

五影 雄三・荻果 史恭・佐野川谷 保昌・山添 尚子・尾崎 京子・小宮山 美美子・豊田 光子・榊 幸子・圓井 好子・田村 依久子・関 淳一・越野 幸代・峯川 啓・青木 慶子

昭和24年卒

河島 彦明・細原 孝子・白川 知子・辻本 節子・三木 昌子

昭和25年卒

岩田 由孝・高岡 伸一・国東 雅郎・竹田 練三・本田 修平・三野 四郎・水口 幸子・上野 恭子・佐野川谷 大治・玉置 衡二・安達 幸子・衣笠 桂子・中林 昌子・塩路 友恵

昭和26年卒

城戸 義雄・筆本 由幸・黒田 紘代・小枝 征子・栗谷 恭三・松井 精朗

昭和27年卒

後藤 忠彦・宮川 泰済・斉田 マリ・荒木 美智子

昭和28年卒

岡島 義之・楠瀬 嘩・西田 充俊・山田 正夫・植松 睦子・乾 篤弘・奥村 博亮・名村 建彦・南 肇・吉田 耕・南 左起子・梅村 康順

昭和29年卒

小寺 悦子・塩崎 勝彦・佐川 周助・那須 好子・大西 州子・田中 通子

昭和30年卒

村田 雄二・上野 靖子・松浦 福子・岸本 光正・田川 和子・井上 薫・石本 巖

昭和31年卒

北畑 英樹・森口 久子・梶井 敏巳・北野 公造・銭高 善・中橋 正和・曲田 秀男・湯浅 橋次郎・相馬 胤昭・武田 勝年・中西 恒彦・石川 智子

昭和32年卒

北沢 一記・小山 彪・島野 圭司・田辺 武人・塩崎 はるみ・瀬川 恵利子・安田 美津子・田中英子・新田 長彦・原 弘

昭和33年卒

海野 隆彦・糸原 和子・本多 怜子・堀 正二

昭和34年卒

英保 昌弘・大江 康照・小西 克彦・佐々木 義之・岸本 泰廣・清水 良三・中川 忠彦・並川 俊一郎・森本 忠精・保田 喜彦・山内 良介・山中 邦子・河野 通子

昭和35年卒

宮脇 棟次郎・葛村 安見・中尾 哲・松嶋 美恵子・里村 裕・住野 公一・田代 雅一

昭和36年卒

三上 修司・田村 高穂・喜田 典子・有岡 雅行・植田 信廣・栗林 守夫・西川 雅夫・米津 精文・伊藤 泰子・岡本 明剛・曲田 誠克・宮田 宗一・海野 優子・亀田 和子

昭和37年卒

石原 義久・岸本 隆宣・吉川 建夫・北條 順子・浜口 隆子・藤元 美和子・樫根 妙・中野 佳則・三上 裕司

昭和38年卒

花房 俊昭・石谷 隆子・稲田 実・大西 良和・尾花 俊作・角谷 景司・宮浦 徹・西願 真佐子・中山 真理子・和食 正久・三橋 泰子・神波 美由喜

昭和39年卒

酒井 一雄・深川 信・牧浦 信一・宮永 教子・佐伯 英隆・辰野 守彦・曲田 勝紀

昭和40年卒

江田 昌平・北尻 雅則・白江 淳郎・山本 佳世子・安宅 千浩・生駒 昌夫・阪口 新太郎

昭和41年卒

加藤 光司・刀襦 佳久・山本 博史・大垣 和永・山崎 まり子・新田 丹至子・富田 まさみ・松本 香苗・井上 寿士・仲谷 吉記・吉村 盛善・塚原 保子・三上 淑子

昭和42年卒

渋谷 喜作・永原 寛夫・山野 正博・山野 しおり・神野 典子・吉村 計三

昭和43年卒

坂中 良郎・菅尾 光子・中出 安子・秋田 光彦

昭和44年卒

塩田 充・阪口 圭一

昭和45年卒

菊岡 正博・中山 博文・浅野 隆司・岩田 以津子・奥村 玲子・前田 博子

昭和46年卒

浅野 知一郎・坂井田 紀子・アルパレス ホセ・浦川 信司

昭和47年卒

寺嶋 知史・前田 健治・渡邊 綾子・浜田 優子・鈴木 暁子・牛造 慎・宮地 義幸・保田 健・本田 多嘉子・伊丹 由美・駒井 香鶴・佐伯 佳世子

昭和48年卒

秋田 光哉・浅野 英一郎・福井 信・宮内 晃・

浦川 正人・紺田 益寛・宮本 知子・尾崎 晋一

昭和49年卒

宮本 美由紀・森村 正嗣・黒尾 規世子・巽 京子・Roberts 有子・木下 吉信・鈴木 宏育・浜田 顕・山本 純子・渡辺 美絵

昭和50年卒

川植 康史・貴志 泰章・富井 寿俊・安達 京・島岡 由紀子・池田 知子・小倉 融子・山田 久代・木岡 哲郎・藤原 早苗・寺井 智子・安堂 雅哉・岡 貴史・平田 健・松田 朋男・山田 英夫・山田 英夫・芳武 努・貝田 恭仁子・正木 恭子・近藤 恵・橋本 洋子・瀬戸 知代

昭和51年卒

武田 善博・菊田 吉紘・橋本 剛幸・内田 洋子

昭和52年卒

上野 知昭・貞包 薫・額田 勝・秦 知世・中村 寿美子・井上 剛・太田 祥彦・谷口 禎英・多屋 貞一・服部 浩治・村上 正昭・福岡 有佳

昭和53年卒

阿部 伸彦・川崎 一・徳井 幹也・福田 昌史・山本 倍生・井上 佐代子・櫻井 淑恵・赤尾 滋樹・江村 成就・江村 成就・黒田 幸作・堀 潤・寺嶋 祐里・大江 晃弘・西村 泰彦・森澤 貴紀・白畑 夏初

昭和54年卒

川本 雅行・櫻井 勝也・山口 美納子・石本 佳久・巽 宣夫・東野 晃治・大石 賀美・箱崎 雄子・横田 美幸子・櫻井 忠孝・小林 美佐・貴志 あずさ・山内 志津子

昭和55年卒

安達 剛・太田 今子・大橋 史子・貫戸 裕史・津村 一也・藤井 茂彦・崎山 恵子・田中 玲子・塚 芳明・和島 伸幸

昭和56年卒

前野 妙子・小山 博子・松谷 亮一・江口 文香・上尾 礼子・石井 正子・井上 雅代・小野 まゆ・熊谷 有紀・西村 尚子・藤井 葉子・小谷 徹・北田 聖路

昭和58年卒

都丸 清史・沈沢 欣恵・石渡 寛之・岩井 孝一・前坊 豊仁・首藤 久美・重野 貴宣・尾家 理佳・河村 章代・中西 有紀

昭和59年卒

高木 啓輔・石橋 大介・高谷 亮介・鳥山 富士枝・橋本 敦・眞鍋 晃篤・山鳥 忠宏

昭和60年卒

宮本 紀雪・井後 登史子・井上 吉隆

昭和61年卒

磯橋 文明・奥野 健太郎・谷崎 貴士・中桐 伴友・吉村 真代・上田 康生・益栄 秀樹・松田 満夫・森川 宏樹・安田 幸嗣・藤田 晶子

昭和62年卒

高嶋 晃寛・横山 美紀

昭和63年卒

玉田 一敬・柴田 亜紀・澤 裕嗣・竹野 元二・勝村 五洋子・松井 久恵

平成元年卒

上田 順宏・坂田 尚英・曲田 紀子・安田 正治・松本 絵美

平成 2 年卒

三上 典子・小野 誓子

平成 3 年卒

北田 博一・菊澤 明

平成 4 年卒

市原 孝浩・瀧藤 尊子

平成 5 年卒

太田 哲郎・澤 雄大・竹野 悠佳・北田 悠佳・錦織 有史・野田 尚宏・稲田 瑞穂・曲田 智美

平成 6 年卒

新堂 昌宏

平成 7 年卒

井澤 良介・瀧藤 順聖・中嶋 平治・佐々木 有紀子・真殿 知代子・神田 蘭香・左藤 倫子

平成 8 年卒

稲田 有華・神田 琴智・林 ひとみ

平成 9 年卒

橋本 佳奈・稲田 寛輝・神田 剛輝・赤木 健太郎・板根 貞嗣・南野 久美子

平成10年卒

菅尾 英祐・竹岩 俊彦・中尾 一浩・林 浩也・白江 恭子・小林 弘樹

平成11年卒

新堂 依子・本田 晶子・伊丹 高顕

平成12年卒

松浦 文彦・橋本 祐・平木 秀輔・川崎 澄・南野 太志・島田 有理

平成13年卒

新海 数馬・新堂 順久・黒田 実紗子・柴田 有花・辻 詔子・石近 裕一郎・小亀 秀行・山中 克茂・中尾 美沙緒

平成14年卒

堀越 寛生・松浦 弘幸・藤谷 響子・青木 智寛・中野 哲充・藤井 恭太郎・白江 素子・中村 晶子・藤本 晃一郎・吉井 健吾

平成15年卒

高倉 亮・金江 葵乃・韓 新熙・中務 勝基・中村 健佑・藤谷 健太郎・石近 亮介・宮澤 宏輔・門上 由佳・柴田 美帆子

平成16年卒

市村 彰祥・岩崎 孝規・久保 宏樹・菅野 健太・村上 喜彦・渡邊 真隆・川崎 翠・柴田 恭子・白江 倫子・岡本 貴恵・尾崎 由茄・百田 麻美・芥子 和史・橋本 理生・松本 祐輝

平成17年卒

大上 亮次・梶 裕貴・韓 昇熙・秦 将世・梶谷 美里・柴田 知佐・宮澤 祐季・富田 崇史・浅岡 美樹・大内 麻央・大方 実・芝野 加奈子・中村 仁美・原谷 綾・新海 郁馬・松井 元哉・池田 英美・畠中 亮香・水野 那奈子

平成18年卒

岡村 翔・田川 碩生・中川 雅友・宮本 典明・中山 詩子・増田 咲生子・九鬼 ゆり・清水 梨紗・野崎 由夏・羽藤 沙恵・細田 佳奈子・門上 佑生・中川 祐熙・山本 宗一郎・池田 奈美・岩井 香那・嶋井 真優・韓 美紀・後藤 有香・櫻井 孝子

平成19年卒

木岡 亮平・角田 武也・住吉 裕太・寺田 有一郎・森田 剛史・渡生 弥・牛島 阿衣紗・金高 健・井上 慶久・今村 正秀・北川 裕也・福田 裕一朗・宮 智成・朝海 通華・伊堂 美樹・秋岡 正史・池田 雄亮・岩崎 大智・中務 勝等・水野 尚未・石川 小百合・岡部 円香・柿迫 利香・百田 裕加

平成20年卒

大内 康平・上森 瑞生・川邊 直幸・北岸 友和・小杉 悠貴・後藤 陽亮・田中 優成・時實一嘉・福地 倅己・山下 倉太郎・大友 祐佳・大柳 恵・酒井 伽奈・坂本 真優・篠田 実怜・三島 奈都子・井上 寛之・大野 純生・三田 雄大・南野 皓亮・安田 恭輔・市田山 宝・大塚 菜生・小川 詩織・九鬼 るり・佐原 秀美・佐原 芳美・中澤 杏咲・西村 伊代・梅田 佑生・金生 黎也・高濱 斗貴耶・辻村 拓也・西岡 拓哉・西出 真大・樺木 隆太・日野 太貴・正木 大智・安田 和徳・勝間 愛・北村 歩・塩見 伶榮・柴田 知映・清水 野々香・中川 真緒・秦 理沙子・松井 瞳

平成21年卒

大下 諒・坂下 陽平・澤田 統・田中 優成・中野 銀次郎・前田 憲秀・松本 拓海・宮本 誉・山本 車輔・大西 真理彩・加藤 江伶菜・門田 奈々・佐藤 瑞姫・田中 幸美・寺坂 晴香・三井 紗智子・南野 ころこ・宮崎 茜・北村 英後・中野 健人・橋本 拓真・長谷川 諒・葉山 僚哉・平井 信登・村井 拓斗・森川 真志・山口 良典・岩田 寛子・野崎 真由・増田 紗千子・溝端 千紗・桃田 あおい・山本 莉奈子・崎原 盛偉・高辻 彬仁・前田 達也・丸橋 正宣・天津 優紀恵・石井 聖加・速藤 優・土居 采矢佳・東辻 真依

平成22年卒

大友 雄登・北林 勇氣・志賀 泰星・芝田 大輝・西村 夏彦・藤村 亮介・村岡 裕太・村田 裕太郎・米田 満陽・緒方 もも・小田 望琴・木岡 薫・木本 明咲花・久保 幸穂・高 佑佳・西岡 優衣・坂東 真衣・椋本 瑛美・和島 陽菜・池本 俊輔・河井 大輝・杉岡 純平・高木 裕仁・長橋 一徹・安田 賢次・石川 万奈恵・倉木 萌・宅間 智代・中谷 侑加・細川 瑞貴・本城 理奈・松倉 裕理華・村山 紬野・龍後 奈々・市田山 力・岩崎 哲央・奥村 亮祐・小原 正暉・田中 智章・橋本 勇志・光瀬 峻介・石井 詩子・藤田 実佑・菅井 彩香・杉野 綾香・瀬川 ころこ・星野 恭子・吉田 映紀・川本 ひかる

平成23年卒

全員

雑松会会計平成22年度収支計算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日
会計幹事 赤尾 滋樹

収入部	・年会費、賛助会費	1,843,300	郵便払込 661 口 平成22年度会費	1,837,300 円
			直接納入 2 口 "	6,000 円
	・平成22年3月卒業生 新会員入会金、年会費	600,000	入会金 3,000 円 × 120名 =	360,000 円
	・預金利息	5,126	年会費 2,000 円 × 120名 =	240,000 円
			定期預金利息 1年定期	4,775 円
			(口座番号 2058871)	
			普通預金利息	351 円
			(口座番号 112670、1135673)	
	小 計	2,448,426		
	前年度からの繰越金	8,315,725	定期預金(口座番号 2058871) 1年定期	6,632,016 円
支出部			普通預金(口座番号 1135673)	2,276,709 円
			普通預金(口座番号 0112670)	0 円
			郵便口座	5,000 円
			現金	2,000 円
			前受金(22年3月卒業生入会金@3000×120名)	-360,000 円
			前受金(22年3月卒業生年会費@2000×120名)	-240,000 円
	合 計	10,764,151		
	・総会費	0	総会費用	0 円
	・会報印刷費	686,752	第41号会報印刷代	686,752 円
	・郵送費	1,269,244	会報発送、名簿発送、総会案内発送費等	1,269,244 円
・名簿管理料	231,000	樹廣濟堂(2年分)	231,000 円	
・諸会費	330,235	ジュニア会補助、幹事会、総務会	330,235 円	
・記念品	0	卒業生記念品	0 円	
・事務用品	630	インク、ファイル代	630 円	
・雑費	9,775	来賓手土産	9,775 円	
・その他	40,734	同期会補助	40,734 円	
合 計	2,568,370			
次年度への繰越金	8,195,781	定期預金(口座番号 2058871) 1年定期	6,636,791 円	
		普通預金(口座番号 1135673)	653,990 円	
		普通預金(口座番号 0112670)	0 円	
		仮払金(130周年総会 前金)	1,500,000 円	
		郵便口座	0 円	
		前受金(23年3月卒業生入会金@3000×119名)	-357,000 円	
		前受金(23年3月卒業生年会費@2000×119名)	-238,000 円	
合 計	8,195,781 円			